

①事業名	【55】科学技術分野における女性の活躍促進	
②主管課及び関係課(課長名)	(主管課) 科学技術・学術政策局基盤政策課 (課長: 榊原 裕二)	
③施策目標及び達成目標	<p>施策目標5-1 優れた科学技術関係人材の養成・確保 達成目標5-1-1 若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するとともに、産業界等への就業を促進するなど博士号取得者のキャリアパスの多様化を促進する。 達成目標5-1-2 女性研究者の活躍を促進するため、環境の整備を促進する。</p>	
④事業の概要	科学技術分野における女性の活躍を促進するため、女性研究者・技術者や学生・生徒等の交流、女子生徒の進路選択支援のための情報提供等を実施。	
⑤予算額及び事業開始年度	平成18年度概算要求額: 47百万円 事業開始年度: 平成18年度	
⑥事業開始時において得ようとした効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑦得られた効果	〔拡充事業の場合のみ記入〕	
⑧得ようとする効果及び上位目標との関係	【得ようとする効果】	⑨達成年度
	<p>女性本人や保護者、教員等に対するロールモデル情報を提供したり、研究者同士や学生・生徒等との交流機会を充実することにより、女性の科学技術分野への進路選択における精神的障壁を取り除き、科学技術分野への進路を希望する学生、生徒等が増加し、科学技術分野において女性の活躍が促進されること。</p> <p>【上位目標との関係】 本事業で上記のような効果を上げることと、研究と出産・育児等の両立支援や科学技術関係人材のキャリアパス多様化推進などの関連施策との相乗効果により、女性が科学技術に関する多様な場でその能力を最大限に発揮し活躍することができ、優れた科学技術関係人材の養成・確保に資することを目指す。</p>	平成22年度
⑩必要性	<p>我が国が科学技術創造立国として持続的な発展を遂げ、安全・安心で質の高い生活環境を構築していくためには、科学技術・学術活動の基盤となる人材を養成・確保していくことが極めて重要な課題である。</p> <p>一方、我が国の研究者における女性の割合は約12%と、世界的に見て著しく低い水準(OECD最低レベル)となっており、科学技術分野における女性の活躍を促進することが急務となっている。</p> <p>特に、研究者における女性の絶対数が少ないことにより、現在大学等の研究機関において研究活動に従事している女性にとっても、これから研究者や技術者等を目指す学生・生徒にとっても、参考となる女性の身近な活躍事例(ロールモデル)が少なく自らの将来像を描くことが難しいことが、女性の科学技術分野への参画が十分に進んでいないことの原因の一つと考えられている。</p> <p>このため、国としては、女性人材の活躍支援に関する各研究機関・団体の主体的な取組を促しつつ、ロールモデルを収集しインターネット上のデータベースで情報発信することや、女性研究者や学生・生徒等の関係者の交流・ネットワーク化の場の構築を行うことが必要である。</p> <p>内閣府の平成17年版男女共同参画白書は、序説において科学技術の進展と男女共同参画を取り上げ、我が国の研究分野における女性の活躍の促進が不十分であることを取</p>	

	<p>り上げ、具体的改善方策の一つとして「女性の研究者等が活躍する姿をロールモデル情報として伝えるなど、女子が進んで理工系分野にチャレンジするための支援方策が求められる」としている。「男女共同参画基本計画改定に当たっての基本的な考え方ー男女がともに輝く社会へー」（平成17年7月男女共同参画基本計画に関する専門調査会）においては、平成18年度からの5年計画である次期男女共同参画基本計画における「新たな取組を必要とする分野」として科学技術分野を取り上げ、「女子高校生等女性若年層への関心・理解を高めるため、本人及びその進路選択に影響力のある親・教師をも対象にした女性研究者等のロールモデル情報の提供、科学技術の理解増進事業を推進することとしている。</p> <p>また、総合科学技術会議の「平成18年度の科学技術に関する予算、人材等の資源配分方針」は「女性研究者が活躍できる機会の拡大と社会や組織の諸制度・環境の整備」の必要性について言及し、科学技術・学術審議会基本計画特別委員会においても、第3期基本計画における重要政策の一つに女性の活躍促進を位置づけている。</p> <p>このように、次期の科学技術基本計画、男女共同参画基本計画の双方において、女性研究者の活躍促進は重要課題の一つとして位置づけられており、国として本事業のように具体的な方策を講じることが必要である。</p>
⑪効率性	<p>【事業に投入されるインプット（資源量）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 科学技術分野における女性の活躍促進事業：47百万円 <p>【事業から得られるアウトプット（活動量）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ロールモデルデータベースの作成、進路選択に資する参考資料などを作成。インターネットでの公開、各種行事等における資料配付等を通じて、情報の積極的配信を図る。 女性研究者、学生・生徒や女性人材の活躍を支援する関係団体等が集い、情報交流等を行いネットワーク化するための機会として、シンポジウム等のイベントを開催。 大学等の研究機関、学協会、教育委員会等や内閣府男女共同参画局や総合科学技術会議等の関係機関と連携することにより、ロールモデルのデータベースや啓発資料等について、効果的な活用を図る。
⑫想定できる代替手段との比較考量	<p>女性の活躍促進に向けたロールモデルの作成等の施策は、各研究機関が単独で行うよりも、国が情報を集約・発信することで、より高い情報発信効果が期待できる。</p>
⑬有効性	<p>【指標・参考指標（例）】</p> <p>以下のような指標を用い、過去との比較、施策対象者と非対象者との比較等を行いながら、総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性研究者の人数、採用数 理工系学部・大学院等への女性の進学者数、進学者比率 ロールモデル等の情報提供の利用者数、利用者満足度 女性の活躍促進に組織的に取り組む研究機関の数（行動計画の策定状況等） 研究チームリーダー、女性研究者本人等の意識変化（アンケート）等 <p>効果の把握の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研究機関における取組のレビューや、研究者を対象とした意識調査等を実施することによるデータ取得方法を検討中。 例示の指標は、既存の調査等では把握できていないものも多いため、施策の具体化と並行して、フォローアップ方法を検討していく。（事業の実施を通じて課題を明らかにする中で、必要な指標を追加・修正することも含む。） <p>得ようとする効果の達成見込み及びその判断根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究者等に占める女性の割合は未だ少数であることから、これらの割合が高くなるまでには、相応の期間が必要になると考えられるが、進路選択に資する情報の普及や意識啓発が進むことで、組織的な支援を行う取組が広がり、多様な人材の様々な分野への進出が着実に進むことが期待できる。
⑭公平性、優先性	<p>[政策の特性に応じて、必要により評価]</p>
⑮評価に用いたデータ・情報・外部評価等	<p>【データ・情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内閣府「平成17年版 男女共同参画白書」（平成17年5月） 文部科学省「大学・公的研究機関におけるポストドクター等の雇用状況調査」（平成17年4月） 文部科学省「我が国の研究活動の実態に関する調査」

- ・ 科学技術政策研究所「基本計画の達成効果の評価のための調査」（平成17年3月）
- ・ (株)三菱総合研究所「研究人材の将来需給に関する調査」（平成17年3月）

【外部の意見】

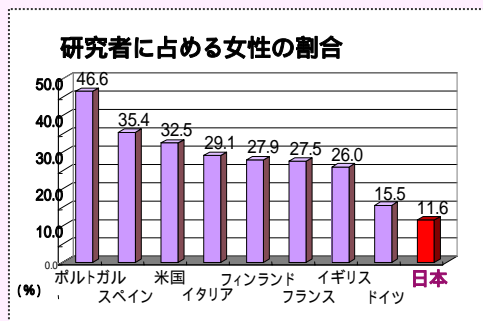
- ・ 科学技術・学術審議会 基本計画特別委員会「第3期科学技術基本計画の重要政策一知の大競争時代を先導する科学技術戦略一（中間取りまとめ）（平成17年4月）
- ・ 男女共同参画会議 男女共同参画基本計画に関する専門調査会「男女共同参画基本計画改定に当たっての基本的な考え方ー男女がともに輝く社会へー」（平成17年7月）

⑩備 考

科学技術分野における女性の活躍促進

課題

我が国の女性の研究者割合は国際的に見て著しく低く、女性が科学技術分野に進む上での参考となる身近な事例（ロールモデル）が乏しく、女性が研究者等をめざす上で将来像が描きにくいことが問題。



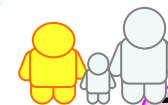
対応

研究と出産・育児等の両立支援とあわせ、女性の進路選択に関する情報提供による支援を行い、科学技術分野における女性の活躍促進を図る。

女性の進路選択支援

科学技術分野で活躍する女性の事例の紹介
(ロールモデル等進路選択支援情報の提供)

女性研究者・学生等の交流の場の実施
(シンポジウム等の開催)



キャリアアップ

研究者、技術者等

就職

大学院生
ポストドクター

大学院進学

大学生

大学入学

中学生、高校生

大学・研究機関等における、研究と出産・育児等との両立支援に係る状況の調査・公表

出産・育児等による研究中断からの復帰支援
(特別研究員事業)

研究と育児等の
両立支援

(関連施策)